

地震大子ハイ

患者 廊下にあふれる

AMDA 被災地の現状報告

ハイチ大地震を受け、緊急医療チームを派遣している国際医療救援団体「AMDA」(本部・北区)が21日、被災地の現状を報告した。首都ポルトープランスから約60キロ北のサンマルクの病院は、20日の余震後は病室の床や廊下にあふれるほど多くの患者が詰めかけているという。

AMDAによると、派遣チームの医師、看護師らが診療を行っているサンマルクのセント・ピエール病院には、1日



サンマルクの病院で医療支援にあたる渡久地宏文医師(手前)＝AMDA提供

に100人以上の患者が訪れ、処置を待って院では、米・ポストン

から派遣された医師団も診察にあたっている。負傷者は骨折などの外傷が多く、頭の骨が折れたり、内臓が圧迫されている症例もある。

初期に適切な手当が受けられずに症状が悪化し、手や足を切断せざるを得ないケースもあるという。さらに、身内を頼るなどして壊滅状態にある首都近郊から移動してくる住民もいる。

現地からの報告を受け、AMDAはカナダ支部の看護師2人を追加派遣するほか、コロンビア支部から外科医、麻酔科医ら4人の派遣準備を進めている。

る。
義援金は郵便振替
(口座番号012550
—2—40709、口座名「特定非営利活動法人アムダ」、通信欄に「ハイチ地震」と記入)で受け付ける。

【椋田佳代】